

科目名		法学(Law)							
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第4学年	電気工学科 物質工学科	学修	2 単位	必修	講義	通年 100 分/週	90 時間		
担 当 教 員		【非常勤】 山本 光英 (【副担当】 山下 祐志)							
学 習 到 達 目 標									
科目の到達 目標レベル	(1)日本の法制度が理解できる。 (2)現代社会の諸問題が理解できる。 (3)裁判の基本原則が理解できる。								
学習・教育目標	(F)③④		JABEE基準1(2)		(a)				
関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材									
関連科目	現代社会								
教科書	「法学入門」第6版 末川博著(有斐閣双書),「法学六法」石川明著(信山社)								
補助教材等									
達 成 度 評 価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間 試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭 発表	成果品	ポート フォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50							100
知識の基本的な理解 【知識の基本的な理解】	◎	◎							
思考・推論・創造への 適用力 【適用、分析レベル】	○	○							
汎用的技能 【 】									
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と 創造的思考力 【 】	○	○							
学 習 上 の 留 意 点 お よ び 学 習 上 の 助 言									
法学の基本的事項を理解し、現代社会の諸問題を概観するとともに、刑事裁判の基本的な諸原則の学習を通じて、現代の人権保障のための制度および司法制度を理解する。六法全書に目をとおしておくこと。なお、年4回の筆記試験の成績を総合評価するが、受講生が工学系の学生であることを配慮し、合格点に若干足らなかった学生に対してのみ、口頭試問による救済の余地を残しておく。									

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	導入 法とは何か	シラバスの趣旨が理解できる。法規範とその他の社会規範との違いが理解できる。	
2	法の発展	実定法と自然法, 法秩序の体系が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
3	法と裁判	裁判制度, 裁判の関与者, 裁判所の種類と管轄, 刑事裁判と民事裁判の違いを理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
4	裁判の基準	法源, 制定法, 慣習法, 判例法, 条理の意味と内容が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
5	近代国家と憲法(1)	近代憲法の原理, 明治憲法の特徴が理解できる。	中間試験に備える。
6	近代国家と憲法(2)	現行憲法の成立と基本原則の内容が理解できる。	中間試験に備える。
7	中間試験		
8	犯罪と刑罰(1)	犯罪とは何か, 刑罰の種類が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
9	犯罪と刑罰(2)	罪刑法定主義と派生原則を説明できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
10	犯罪の成立要件(1)	行為と因果関係の意味と内容が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
11	犯罪の成立要件(2)	違法性と違法性阻却事由, とくに正当防衛・緊急避難の意義を理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
12	犯罪の成立要件(3)	有責性, 責任能力, 原因において自由な行為の意味が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで, 自分の考えをまとめる。
13	犯罪の成立要件(4)	故意と過失の意味と内容が理解できる。	前期末試験に備える。
14	犯罪の成立要件(5)	既遂と未遂, その特殊事例が理解できる。	前期末試験に備える。
	前期末試験		
15	答案返却・解答解説	試験問題の解説を通じて, 間違った箇所を理解できる。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
16	現代の犯罪(1)	一般の社会規範の内容・社会通念が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
17	現代の犯罪(2)	3銭の電気窃盗事件をもとに、社会規範・法規範を理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
18	現代の犯罪(3)	現代の少年犯罪の現状とその予防について理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
19	現代の犯罪(4)	交通事故の現状と危険運転致死傷罪の内容が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
20	裁判員制度(1)	裁判員制度と陪審制・参審制の異同を説明できる。	中間試験に備える。
21	裁判員制度(2)	裁判員制度の問題点を説明できる。	中間試験に備える。
22	中間試験		
23	刑事手続きの流れ(1)	刑事手続きの流れの概要が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
24	刑事手続きの流れ(2)	公判(冒頭手続き、証拠調べ、判決)の流れと内容が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
25	刑事手続きにおける人権保障(1)	憲法における人権保障、令状主義の意味を説明できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
26	刑事手続きにおける人権保障(2)	捜査の端緒、逮捕、勾留の意味と内容が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
27	公判の基本原則(1)	無罪の確定、拳証責任、証明の程度の意味と内容が理解できる。	教科書と六法全書をていねいに読んで、自分の考えをまとめる。
28	公判の基本原則(2)	黙秘権と自白法則の意味と内容が理解できる。	学年末試験に備える。
29	公判の基本原則(3)	補強法則の意味と内容が理解できる。	学年末試験に備える。
	学年末試験		
30	答案返却・解答解説。全体の学習事項のまとめ。授業改善アンケートの実施。	試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解できる。	
総 学 習 時 間 数			90 時間
講 義			50 時間
自学自習			40 時間